

氏名	吉川理津子
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 3796 号
学位授与の日付	平成 21 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目 Urinary PGDS levels are associated with vascular injury in type 2 diabetes patients
(2型糖尿病患者において尿中PGDS濃度は血管障害と関連がある)

論文審査委員 教授 谷本 光音 教授 光延 文裕 准教授 松浦 栄次

学位論文内容の要旨

WHOとNCEP ATP-III基準のメタボリックシンドローム(Met S)は心疾患の頻度と死亡率を上昇させることは明らかであるが、IDFについてはいまだはっきりしていない。我々は日本人の2型糖尿病患者において症例対象研究でMet Sと無症候性ラクナ梗塞、Cardiovascular disease(CVD)の関連について検討し、さらに尿中蛋白についても検討した。症例は233人でMet SはWHOとIDFの基準で診断した。ラクナ梗塞は頭部MRIにて、CVDは聞き取り調査した。Met Sの頻度はWHO 31.3%、IDF 52%で、微量アルブミン尿陽性患者は26.6%であった。IDF基準やアルブミン尿とラクナ梗塞との関連は有意ではなかったが、WHO基準とラクナ梗塞の関連は有意であった(OR=2.854,P=0.035)。CVDについてはMet Sにも微量アルブミン尿にも関連は認められなかったが、NAG、 β 2ミクログロブリン、PGDSの尿中蛋白との間には有意に関連がみられ、ロジスティック解析では尿中PGDSとCVDの関連がもっとも有意であると考えられた(OR=3.847,p=0.025)

論文審査結果の要旨

本研究は本邦2型糖尿病患者においてメタボリックシンドローム (MetS) と無症候性ラクナ梗塞、Cardiovascular Disease(CVD)の関連を検討し、CVDについてNAG、 β 2ミクログロブリン、Lipocalin-type Prostaglandin D synthase (PGDS)などの尿中蛋白との間に有意の相関を検出し、ロジスティック解析において尿中PGDSとCVDの関連性が最も有意であることを見出している。

以上の結果は、尿中蛋白と2型糖尿病の血管病変との関連において重要な知見であり、また本症の病態診断に関する貴重な業績である。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。